

令和元年度 第7回練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 会議要約

◆開催日時

令和元年 11月20日(水) 14時00分～15時30分

◆開催場所

練馬区役所本庁舎 20階 交流会場

◆出席者

1 委員

秋元雄史委員長、福井直昭委員、江村健二委員、関口登美雄委員、江川誠志委員、須藤麻世委員、前田尚子委員

小金井靖(地域文化部長、副委員長)、小沼寛幸(文化・生涯学習課長)、

竹永修一(東部地域まちづくり課長)、原田昭二(道路公園課長)、清水優子(光が丘図書館長)

2 事務局

文化・生涯学習課施設計画担当係 林、渡邊

株式会社 丹青研究所

◆会議意見要約

議事 美術館再整備基本構想策定検討委員会 提言(案)について

【副委員長】

- ・今回は提言というかたちでまとめさせていただく。今後、サンライフ練馬や図書館との連携等を検討し、その結果を「構想」として来年度のできるだけ早い段階で出す。

【委員】

- ・「アートとまち」にするのなら、美術館を1階にするとアートのイメージが強くなる。

【委員】

- ・「NeighborMUSEUM」というのがとても面白い。所沢や立川にミュージアムや図書館が入る大型複合施設ができる。練馬は小規模だが、そういう身近に感じる美術館になるとよい。
- ・美術館学芸員のワークショップはプロセスを重視しており、これまで参加したワークショップのなかで一番良い内容であった。大事にしてほしい。
- ・アーティスト・イン・レジデンスもプロセスを見せていくものなので、ぜひ進めてほしい。練馬区と交流のあるオーストラリアの作家と交流するとよい。

【委員】

- ・サンライフも図書館も一緒になり、展示室を大きくとり、スポーツジムを利用する方が美術館を帰りに観ていくようになるとよい。

【委員】

- ・令和3年度に、地域とのつながりがより求められる内容へと学習指導要領が変わる。美術教員の研究会での講演や、連携によるプログラム開発など、美術教育との連携も視野に入れてほしい。

【委員】

- ・基本構想段階としてはよくまとまっている。わかりやすく、ストーリーも含めてワクワクするようなものができていると感じた。
- ・サンライフの機能や建物の話があいまいなので、ある程度ははっきりしたほうがよい。

【文化・生涯学習課長】

- ・サンライフの体育機能を代替できるのかどうか、区として整理しきれていないため具体をお示しできない。

【副委員長】

- ・周辺全体で整備を考えるということを区の総合計画として打ち出しており、共存できる場所は共存し、代替できるものは代替する。体育館はスペースが大きいので、どこまで面積や機能が必要なのか詰めているところである。

【委員】

- ・商店会としても美術館と一体となった商店街にしたいと考えている。駅を降りた時に商店街も美術館らしい雰囲気を感じてもらえるとよい。街路灯をアートのラッピングするなど、違う商店街だと思われるようにやってみたい。

【委員】

- ・レンタルスペースをつくるのなら、車寄せや駐車スペースがあったほうがよい。

【副委員長】

- ・現状では駐車場が5台分あり、ギャラリー貸出の日にはご利用頂いている。協議が必要だが車寄せも検討したい。ただ、駐車場をたくさん取るのは難しい。

【東部地域まちづくり課長】

- ・中村橋駅にタクシーの車寄せがないというのは区でも承知していて、まちづくりの課題として捉えている。

【委員】

- ・区民との接点という意味では、サポーターは重要な役割を担う。活動内容をはっきりさせた上で募集するなど、サポーターの体質そのものを変えていかないといけない。

【文化・生涯学習課長】

○欠席委員の意見紹介

- ・札幌市市民交流プラザでは、読書や勉強に集中しやすい席や、パソコン利用ができる席など、多様な使い方ができる施設として参考になる。練馬区でも美術館と交流の場がごちゃ混ぜになってもよいと思う。
- ・来館ポイントを与え、たまったポイントで何かサービスを受けられると、リピートが増すのではないかな。
- ・図書館や美術館はサービス機関である。サービス機関としての意識を向上させることで、施設の魅力が高まり、住民に選ばれるまちになる。人口減少社会の厳しい自治体間競争を勝ち抜くためには、地域の特性をどんどん出していく振興策が重要である。
- ・図書館は集客力が高いので、魅力的な図書館を併設し、そこから美術館に引き込むことが重要である。
- ・大原美術館では地域の方たちが施設運営に参加している。仕組みづくりのイニシャルコストはかかるが、体制ができれば地域の人を巻き込んだ館の運営ができる。
- ・高齢者だけでなく、障害者をはじめ誰もが使いやすいようにしていただきたい。
- ・事前に予約をしなくてもそこに行けば、活字離れと言われる子どもたちが美術館でも、図書館でも何かできるというように、図書館と美術館を融合することで、より良い教育普及プログラムを展開

開していく場所になるとよい。

【委員】

- ・オランダの図書館では、壁紙が最新のアート作品だったり、お洒落なレストランが併設されていたり、パソコンも使える環境だった。そのあたりは前進させてほしい。
- ・日本大学芸術学部の彫刻コースに地域芸術専攻ができたようなので、コラボレーションを期待している。

以上